民主文学

いちばん身近な文芸誌

毎月8日発売

編集・発売 日本民主主義文学会

TEL 03-5940-6335 FAX 03-5940-6339

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 サンレックス202号

1月号より新連載スタート

仙洞田一彦 作・新連載小説！

忘れ火

人はなぜ、どのようにしてたたかいに立ち上がるのか

仙洞田一彦（せんどうだかずひこ）

1945年、山梨県生まれ。高校卒業後甲府市内で働き、その後上京。東京都大田区在住。民主主義文学会会員。『民主文学』に短編小説掲載。2011年『しんぶん赤旗』に「再生」連載。

『2016年国民春闘白書』によると1970年の労働組合員数は1161万人、推定組織率は35・4パーセントだった。それが2014年は985万人、17・5パーセントとなっている。

大リストラが全国で行われた1998年、東京南部にある従業員4000人のG社の職場では、会社から管理職に「ぶらさがり」（不適格者）を作り出せと命令がくだる。昇給、ボーナスの査定が低い者が対象としてあげられていく。生産本部で働く三神実は、自分の仕事を他の人に「やってもらってくれ」と言われる。それは三神がリストラのターゲットになったことを意味していた。

■この機会に、『民主文学』をぜひご購読ください■

筆者のことば

1971年から労働組合に加わわった。数年たち「連敗春闘」などと言われるようになり、しばらくしてその言葉も消えたようだ。そうした状態がなくなったというわけではなく、「普通」になってしまったからではないか。やがて、本人が望まなくても「非正規社員」として働かざるを得ない状況が生まれている。「ブラック企業」「パワハラ」も「普通」になった。クビになりたくなければ、精神を壊してまで、死ぬまで働かなければならないところに追い詰められている。かつて、ムチやこん棒を持った現場監督がいた時代もあったが、その時代に戻ったようだ。

しかしそれによって、労働者の心底にあるたたかいの火までは消されていないことを信じたい。

■■ 人減らしリストラ渦中の労働者像を描く ■■

購読申込書

民主文学購読費
月額 970円送料込み

日本民主主義文学会 FAX番号03（5940）6339

月 日

いずれかに○印をつけてください

一月号より定期購読する

「忘れ火」連載中のみ購読する

お名前

ご住所 〒 ー

電話番号

★左の用紙を切り取って、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接自宅にお送りします。